

東の風



やさしく
かしこく
たくましく

学校教育目標：心豊かで自ら学びたくましく生きる子どもの育成

今更ながらではありますが、まとめと仕上げ、そして次年度の為に

家庭学習 その3

一緒に考えてみましょう!

先日、NO. 77に書いていた家庭学習の意義や効果の二つ目。「学ぶ習慣をつける」について今回はもう少し詳しくお伝えしようと思います。

学ぶ習慣をつける・・・毎日家庭学習を続けることにより、自ら進んで学ぶ習慣が身につきます。

小学生の頃から、家庭で机に向かう習慣、学習する習慣をつけることは欠かせません。これから先、中学校、高校と進むにつれ、当然学習内容も高度に難しくなっていきます。今より簡単になることはないのです。大学生ともなれば、与えられたことを学習するのではなく、自分で学びたいものを、自分自身で選択し、自分から学ぶ姿勢がないとやっていけません。



また、学習することが必要なのは学生時代だけではありません。仕事を持ってからも学び続ける必要があります。逆に学生の頃の方が簡単だと思います。なぜなら、学校では決まったことだけを学んでいればそれなりにやっていけるからです。ただ社会に出ればそうはいきません。大人になり、社会人となり様々な職業に就き、仕事をするようになった時、その時は自分自身で、「今の自分、これからの自分には何が必要か、何を学ばなければならないか」を考え、学ばなければなりません。

また自分の仕事に関わる専門的な知識や技術、技能はもちろんのこと、企画力や運営力など様々な実用的な学びを続けなければスキルアップもかなわず、取り残されて、仕事さえ失いかねません。

よく「学校の勉強、例えば算数や数学で習うことは、社会に出てから使うのか。」という子どもがいます。(大人の方にもいらっしゃいます。)結論から言えば『使います。』でしょう。

算数を例にとっても、ただ単純に、足し算や引き算、掛け算や割り算など学校で学習した内容を日常生活の中で使うということだけではありません。

算数や数学を学ぶことによって、物事を道筋を立てて論理的に、構造的に捉えたり、思考したりする力がつきます。実社会においても道筋をたてて考える事は、数学的理論と呼ばれ、仕事の配分、作業の順序、効率の問題などすべて数学がそこには含まれているのです。また、物事を整理し、正しく判断する力が付きます。差別やずるさを見分ける力も付きます。実際には、そんな力が社会に出て役に立つ力といえます。



低学年の今こそチャンスです!

子どもの頃から「自ら学ぶ習慣を身につけること」は、生涯学習の基礎作りでもあります。毎日家庭学習を続けることにより、自ら進んで学ぶ習慣が身につきます。毎日続けることで、当たり前前の習慣になります。少しずつでも継続することが大きな力につながります。「うちの子はまだ1年生だから・・・」ではありません。「低学年だからまだしなくてよい。」ではありません。もちろん遊びも大事ですが、低学年だからこそ、毎日欠かさず家庭学習を継続し、習慣化することが大切です。習慣として一度身につくと勉強が苦にならなくなるので、小さいうちに「勉強はして当たり前」という感覚をつけることが良いのです。

家庭学習 その他の意義や効果

○ 脳が活性化する。

読み・書き・計算を毎日繰り返すことは、脳の活性化につながります。脳も体や手足の筋肉と同じように、毎日繰り返し使うことで活発に働くようになるそうです。(脳神経細胞の連結が強化される。)鍛えれば、鍛えるほど発達し、たくましくなって、脳がいろいろなことにうまく使えるようになります。

○ がまん強さや根気、集中力をつける。

家庭学習の最大の敵、それはテレビやゲーム等の誘惑。この誘惑に打ち勝つことにより、がまん強さ、根気、集中力も養うことができます。テレビやゲームの時間を決めて学習や読書等の時間を確保しましょう。

○ 家族のふれあいが、子どもの心身の健やかな成長につながる。

「勉強が分からない時、教えたり一緒に調べたりしてあげる。」「本を読んでいる時、横で聞いてあげる。」など家庭学習をしている子どもに親が関わることによりコミュニケーションが図れます。暖かな家族のふれあいの機会が増えることは、子どもの精神の安定につながり、心身も頭脳も健やかに育ちます。

